

第9回千駄木小学校等改築基本構想検討委員会

会議録

日時	令和5年10月11日(水) 18:30~20:30	場所	文京区立千駄木小学校 体育館
委員	<p><委員> (出席)</p>		
事務局	<p>委員長 新名 幸男 (教育推進部長の職にある者)</p>		
	<p>副委員長 中川 景司 (教育推進部学務課長の職にある者)</p>		
	<p>委員 村木 陽介 (千駄木小学校 PTA)</p>		
	<p>委員 大井 明彦 (文林中学校 PTA)</p>		
	<p>委員 高橋 あすか (千駄木幼稚園 PTA)</p>		
	<p>委員 神辺 正規 (千駄木育成室父母会)</p>		
	<p>委員 鈴木 悠介 (文林中学校育成室父母会)</p>		
	<p>委員 神部 政文 (文林中学校第二育成室父母会)</p>		
	<p>委員 中村 啓 (学校運営協議会)</p>		
	<p>委員 舟橋 菊男 (千駄木小学校同窓会)</p>		
	<p>委員 梅本 由香 (通学区域内町会・自治会 (千駄木東林町会))</p>		
	<p>委員 松本 正 (通学区域内町会・自治会 (千駄木西林町会))</p>		
	<p>委員 藤森 源弥 (通学区域内町会・自治会 (上動五三会))</p>		
	<p>委員 内藤 マリ子 (通学区域内町会・自治会 (動坂町会))</p>		
	<p>委員 山口 麻衣 (千駄木小学校校長の職にある者)</p>		
	<p>委員 杉山 直之 (文林中学校校長の職にある者)</p>		
	<p>委員 多比良 由恵 (千駄木幼稚園園長の職にある者)</p>		
	<p>委員 鈴木 大助 (教育推進部児童青少年課長の職にある者)</p>		
	<p>委員 大畑 幸代 (施設管理部整備技術課の職にある者)</p>		
	<p>学識経験者 長澤 悟 (株式会社教育環境研究所理事長 東洋大学名誉教授 (工学博士))</p>		
	<p><委員> (欠席)</p>		
	<p>委員 小野 祥一 (地域学校協働本部)</p>		
	<p>委員 菅 完治 (通学区域内町会・自治会 (千駄木三丁目北町会))</p>		
	<p>委員 富永 修紀 (通学区域内町会・自治会 (動坂中町会))</p>		
	<p>委員 相澤 夏紀 (汐見青少年健全育成会)</p>		
	<p>委員 宮原 直務 (教育推進部副参事の職にある者)</p>		
	<p>委員 赤津 一也 (教育推進部教育指導課長の職にある者)</p>		
	<p>委員 横山 尚人 (企画政策部企画課長の職にある者)</p>		
	<p><事務局></p>		
	<p>谷津 星駿 (教育推進部学務課)</p>		
	<p>瀬島 ひかり (教育推進部学務課)</p>		

	<p><コンサルタント> 株式会社マヌ都市建築研究所：板谷 龍二郎、道家 祥平、小松 妙子、打集 宣善</p>
--	--

次第	<p>1 開会 2 委員紹介（新委員より自己紹介） 【資料第1号】文京区立千駄木小学校等改築基本構想検討委員会委員名簿 3 千駄木小学校等改築に係るグループワーク ・テーマ1「学校施設として期待すること」 ・テーマ2「地域の施設として期待すること」 【資料第2号】第1回～第8回検討委員会でのご意見一覧 【資料第3号-1】千駄木小学校の保有諸室及び室数（案） 【資料第3号-2】文林中学校の保有諸室及び室数（案） 【資料第3号-3】千駄木幼稚園の保有諸室及び室数（案） 【資料第3号-4】育成室の保有諸室及び室数（案） 【資料第4号-1】千駄木小学校の建て替えに関する5・6年生からの意見（抜粋） 【資料第4号-2】文林中学校の建て替えに関するアンケート結果 4 その他 5 閉会</p>
----	--

議事録

<1 開会>

○事務局：只今より第9回文京区立千駄木小学校等改築基本構想検討委員会を始めさせていただきます。

本日は、ご多忙の所、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は事務局を務めます教育委員会学務課施設担当の谷津と申します。どうぞよろしく願いいたします。

まず、本日の委員の出欠状況について、ご報告申し上げます。企画課長・横山委員、教育指導課長・赤津委員、教育推進部副参事・宮原委員、地域学校協働本部・小野委員から欠席のご連絡をいただいております。他にも、まだ到着されていない委員が数名いらっしゃいますが、特にご連絡等はいただいております。

次に、配付資料の確認をさせていただきます。本日は資料第1号から資料第4号を配付しております。過不足等はありませんでしょうか。また、今回の検討委員会より委員となった方につきましては、本来直接委嘱状をお渡しすべきところ、会の運営の都合上申し訳ございませんが、委嘱状を机上配付させていただいております。恐れ入りますが、こちらも併せてご確認ください。

<2 委員委嘱（各委員より自己紹介）>

○事務局：資料第1号「文京区立千駄木小学校等改築基本構想検討委員会委員名簿」をご覧ください。

今回は、一部委員の改選がありましたので、新しく委員になられた方をご紹介いたします。

文林中学校第二育成室 神部委員です。

○文林中学校第二育成室 神部委員：よろしくお願ひいたします。

○事務局：続きまして、千駄木東林町会 梅本委員です。

○千駄木東林町会 梅本委員：よろしくお願ひいたします。

＜3 グループワーク＞

○事務局：続きまして、次第の3「グループワーク」に移ります。検討委員会では、7月及び8月に区内の先行事例の見学を行いました。本日は、これをふまえて、千駄木小学校等の改築に関するご意見について、グループワークを通じて広く頂きたく存じます。ご覧のとおり事務局の方で、3つの班に班分けさせていただきました。今、人数に少し偏りがありますので、グループワークが始まる前に、少し班を組み替えさせていただく場合もございます。

グループワークでは、事前にお伝えした2つのテーマ「学校施設として期待すること」「地域の施設として期待すること」の2点について、それぞれ30分ずつ議論していただきます。机上に予め付箋とペンをご用意しておりますので、付箋を貼りながら、地域の特色をふまえた多様な意見をいただければと思います。なお、議論にあたっては、机上の千駄木小学校等の敷地現況図と、お手元の配付資料をご活用ください。現況図については、敷地内のどこに何階建てまで建設可能か等も表示されていますので、こちらもご参照ください。

ここで、お手元の配付資料について説明させていただきます。

資料第2号「第1回～第8回検討委員会でのご意見一覧」をご覧ください。こちらは、これまでの検討委員会で委員の皆様からいただいた主なご意見を、グループワークの2つのテーマ「学校施設として期待すること」「地域の施設として期待すること」に分けて記載したものです。

次に、資料第3号をご覧ください。こちらは、5月に開催した第6回検討委員会の中で配付した、千駄木小学校・文林中学校・千駄木幼稚園・育成室3室それぞれの必要諸室を示した資料に、皆様から頂いたご意見を反映したものです。

最後に、資料第4号をご覧ください。こちらは事前にはお送りしておりませんでした。千駄木小学校と文林中学校の児童・生徒の皆さんに、今回の改築についてご意見いただき、事務局でまとめた資料です。千駄木小学校については、10月2日に5・6年生を対象としたワークショップを授業の中で行いました。当日児童の皆さんから出た意見を抜粋したものを、資料第4号-1にまとめています。文林中学校については、学校を通じて生徒会及び中央委員会の皆さんにアンケート形式で意見をいただきました。いただいた意見は、資料第4号-2にまとめています。

グループワークにあたっては、こちらの配付資料も参考にいただければと思います。

また、グループワークの後には、テーマごとに、各班から内容の発表をしていただきますので、よろしくお願ひいたします。

なお、本日のグループワークで出たご意見については、本検討委員会の報告書の素案に可能な限り反映していきたいと考えております。ご意見は、長澤先生から以前ご紹介いただいた「3つのラ」という、「粗のラ」・改善したい部分、「宝のラ」・既存校舎の残したい部分、「未来のラ」・新しい学校に

期待する設備や部屋、皆様の思いなど、なんでも構いません。千駄木小学校・文林中学校・千駄木幼稚園・育成室を一体的に建て替えるにあたり、多様なご意見をいただければと思います。

なお、本日は、ファシリテーターとしてマヌ都市建築研究所に各班に入っていただきます。ワークの進行はマヌ都市建築研究所が行います。その後、代表の方から、内容の発表をお願いできればと思います。ワーク中は区職員も周囲におりますので、ご不明な点等はお声がけください。

ここまで、ご質問がある方はいらっしゃいますか。

(質疑なし)

○事務局：それでは、まず初めに、今から5分程度、班ごとに自己紹介の時間とさせていただきます。よろしく願いいたします。

(班ごとに各自自己紹介)

○事務局：自己紹介が終わった班から、テーマの1「学校施設として期待すること」についてのグループワークに移ります。

(テーマ1「学校施設として期待すること」グループワーク：記録は別紙)

○事務局：テーマの2「地域の施設として期待すること」についてのグループワークに移ります。

(テーマ2「地域施設として期待すること」グループワーク：記録は別紙)

○事務局：皆様、ありがとうございました。以上でグループワークは終了となります。委員長より一言いただけますでしょうか。

○新名委員長：皆様、本日はグループワーク大変お疲れ様でした。今回、長澤先生からのアドバイスもありまして、今までの全体会議と大分形を変えて、このような形で、ワークショップ、グループワークという形をとらせていただきましたが、いかがでしたでしょうか。皆様、学生に戻ったような形で大変楽しそうに議論していたのが印象的でした。私も各班の発表をお聞かせいただいて、大事にしたいポイントというのがかなり共通しているということで、今回初めての試みではありましたが、今後改築を詰めていくにあたって、大事にしたいポイントというのを改めてこのメンバーで共有できたということで、大変有意義な会だったというふうに思います。今後のことになりましたけれども、本日皆様からこのグループワークでいただいた意見、それから、これまで会議で積み上げてきた意見につきましては、この後、報告書の素案にできる限り盛り込ませていただくということになります。それについては次回の検討会でお示ししますので、次回以降もよろしく願いいたします。私からは以上

になりますけれども、最後に、全体を通じて、長澤先生の方からもコメントをお願いいたします。

○長澤先生：皆様、今日のご苦勞様でした。これまでずっと円卓形式で会議を重ねてきましたが、発言の機会が限られ、いつも皆様には話したいこと、話せることがたくさんあるという感じを受けていたものですから、思いの丈を話せるようにしてはどうかということで、教育委員会とご相談して今日のような場を設定していただきました。私もグループの話し合いに混ぜていただき、また皆様の発表をお聞きして、思うことがたくさんありました。いくつか気が付いたことをお話しさせていただきます。

前段と後段で2つのテーマについて話し合いがされましたが、地域の皆様が多くお集りの場ということで、校舎・施設そのものについての意見、要望よりも、地域にとってこの学校がどう捉えられるかというご意見が多かったと思います。それを一つひとつ大事にし、学校施設づくりだけではなく、今後の地域の環境づくり、あるいは地域づくりにつなげていくことができると思います。それを受け止めて、区の方には実現に向け色々ご検討いただけたらと思います。

最初の発表の中に、おしゃべりスペースがあると良いという意見がありました。それは、教室以外の居場所があると良いんじゃないかということだと思います。私は、この三月に北欧の学校に行って、そこですごく感じたことがあります。学校の中の廊下も含め色々なところにソファーとかベンチとか、座る場所が沢山用意されているんですね。日本の学校って、教室の自分の席以外に座る場所がなく、休み時間とか自由時間の過ごし方を観察していて子どもが座っている写真が一枚もないことに気づかされたことがあります。座る場所は、一人で居られたり、好きな場所があったり、あるいは友達とおしゃべりしたり、みんなで集まったりと、学校が自分の場所と感じられるようになるのにとっても大切です。また、今はネットワークがありますから、座る場所さえあればどこでも学べる場所になります。学校全体が学びの場であり、交流の場となるという、そういう学校づくりが、おしゃべりスペースがあるとよいという言葉ひとつから、学校全体の在り方にまで広げて考えられます。そういう指摘として受け止めることができると思いました。

周辺の道路が狭いというご意見もありました。実は、学校建築も含め、公共施設をつくるというのは、その建物をしっかりつくるというだけじゃなくて、その建物をつくることを通じて地域の環境を、つまり美しい景観であったり安全なまちであったり、そういうのをつくるのが大きなテーマになります。ですから、道路が狭いというご意見から、運動場を狭めることなく周辺の空間をうまく生かすことで、より良い地域づくりにつながってくる、つなげていく可能性がある、そういうご意見として受け止めることができると思います。

それから、大事にしたいものとして、歴史と並んで、自然・樹木というご意見もありました。学校の計画に各地で関わっていると、近年は学校の先生からも教育委員会からも、今ある木は全部切って構わないって言われることが最近よくあります。それは、落ち葉への苦情とか安全とかの観点なのでしょうけれども、聞いていてすごく寂しく残念に思います。桜が大事だ、樹木が大事にしたいと、今日は聞いていて嬉しくなりました。緑の空間があるということは子どもたちが、遊びをそれと関わり合う中で作り出していく、工夫していく、そういう場にもなるし、木陰を用意することにもなる。これも樹木一本の話から、学校環境全体の考え方につながっていくご指摘であったかなと思います。

ここで皆様に投げかけたいのが、学校の中心とは何かということです。そういう議論をしていると、

学校図書館を中心にした学校づくりをしようという意見にまとまってくるケースがよくあります。翻って今までの標準的な校舎だと、3階の廊下の端っこに図書館があって、いつも鍵が閉まっていて、読書の時間だけそこへ行く、こんな勿体ないことはありません。学校図書館というのは、さっき学校の中に座る場所がないと言いましたけれども、自分の教室とは違う場所で少しゆっくりできるとか、本に触れながら違う時間、あるいは違う世界に出会えるとか、学びに誘いかける場となります。読書の場というだけではなくて、学校での学びや生活を豊かにする上でとても良い居場所です。学校の中心に良い図書館ができると、後でアンケートをとってみると好きな場所として筆頭に上げられます。そんな可能性がある場所がいつも端っこにあって鍵が閉まっているというのは、これほど宝を粗末にしていることはないと思います。今は、学校図書館の話をしましたけれども、一体、今度の学校の中心ってなんだろうというような話を、ぜひこれから皆様の中でしていただければと思います。

最後にもう一つだけ申し上げますと、今日、施設について図書館とか広い特別教室というご意見とともに、先生の休憩室をちゃんとつくるのが大事なんじゃないかというご意見がありました。これもある学校づくりで、子どもにとって一番幸せな学校ってどういうところだろうという議論を先生方としていた時に、ある先生から、教師がストレスない状態にいる学校が子供にとって一番幸せな学校ではないかという意見が出され、施設について話しているときだったので、一瞬間が空いた後、なるほどそうだということになりました。先生の休憩室、リフレッシュできる場という意見は、先生方に対する期待と思いの表れと感じました。

今日は、地域の方々にとって日常あるいは災害時を含めて「みんなの学校」ということで議論をされたということだと思います。地域の人にとってはみんなの学校であり、一方、校舎、施設、環境、外周りも含めて、子ども達にとっては「私の学校」と言えると思います。勉強に行く場所、行かされる場所、行かなきゃいけない場所ではなくて、そこは私の居場所、行けば自分の居場所があって、友達に会える。そういう学校は「明日もまた行きたい学校」「明日また友達に会える場所」と、そういう学校にこの新しい千駄木小学校になると良いなと思います。施設だけではなくて、教育や学校運営、地域との関係など、ソフト面も含めたそういう学校の実現には、今はつくるための議論をしていますけれども、できた後の担い手となるのが今ここにおられる皆様方だと思います。地域を支える人々が、学校をつくる過程に参画し、できた後は一緒に見守り続けていく、そういう千駄木小学校の学校づくりを、なおこれからも一緒に進めていけたらと思います。

< 4 その他 >

○事務局：次回、第10回の検討委員会の日程については、後日事務局から調整の連絡をさせていただきます。

それでは、第9回千駄木小学校等改築基本構想検討委員会を終わります。本日は遅くまでありがとうございました。

< 5 閉会 >

以上